

テモテへの手紙第Ⅱ 第4章 2節

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

仕える現場で困難に直面している働き手への勧めである。大変な日々を過ごしている者への勧めである。そうだから、時が良くても悪くても、と迫る。勧めのことばを送っている当の本人は地上における最後のときをおくっている。送り手自身が危機にありながら、それだからこそ勧めのことばである。送り手が亡きあとを託する強い意志が込められていただろう。時が良くても悪くても、しっかりやりなさい、と勧める。

周りの状況に踊らされず、成すべきことをしっかりやりなさい。環境に左右されず、果たすべき事柄があるのは辛くとも、幸いなことである。状況は変化してゆく。しかし、ここでしっかり果たす事柄は変わらず、人を、教会を、世界を変えてゆく。そのちからある、みことばを宣べ伝えなさい。

寒風吹きすさぶベランダの薔薇が5つの蕾をもった。そのうちの二つは5分咲きとなる。寒さのためか、なかなか開かない。試しに屋内に疎開させた。状況が変わったら少し開花スピードが早まった気がする。環境が変化しても花は同じ。天然の香りは素晴らしい。

2021年12月24日